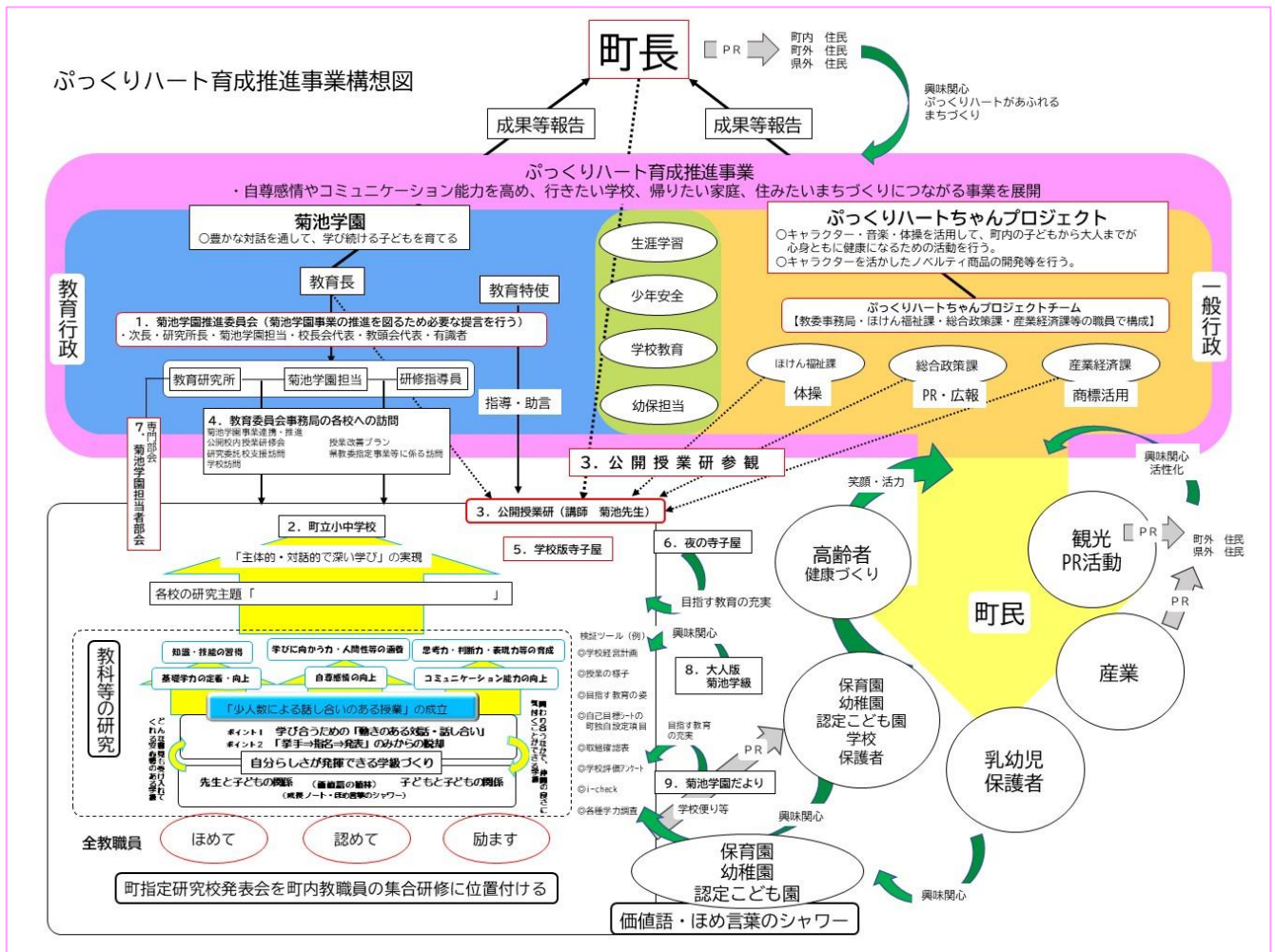


# いの町 菊池学園だより (第34号)

平成28年度から5年間取り組んできた菊池学園事業は、ぷっくりハート育成推進事業の教育分野での取組として、今年度から第2期菊池学園事業として取り組みます。下図は、ぷっくりハート育成推進事業の構想図です。「ぷっくりハート」とは、ありのままの自分を受け入れ、自分のことも相手のことも大切に思える自尊感情が高まった状態のことです。ぷっくりハートを育むために、学校等では「菊池学園事業」に、町民の皆さんには「ぷっくりハートちゃんプロジェクト」を展開し、自尊感情やコミュニケーション能力を高め、行きたい学校、帰りたい家庭、住みたいまちづくりを目指していきます。

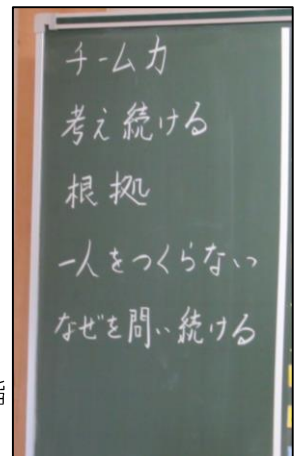
学校ではこれまでの5年間の取組を踏まえ、いの町が目指す教育の姿を土台として研究を進め、自分らしさが発揮できる学級づくりや各教科等の授業で実践していき、菊池先生を講師とした公開授業を行います。



今回の菊池学園だよりは4月28日に伊野小学校で開催された公開授業について紹介します。

今年度、伊野小学校の《少人数による話し合いのある授業の成立》のためのポイント1：学び合うための動きのある対話・話し合いのゴールイメージは、少人数による話し合いのある授業です。具体的な取組や手立ては、「問い」を深める授業・価値語の植林・1/5黒板の利用です。ポイント2：挙手⇒指名⇒発表のみからの脱却のゴールイメージは、自分の立場を決めて参加している授業です。その具体的な取組や手立ては、自分の立場を決めさせる授業・自分の意見を書かせる・1/5黒板の利用です。（※黒板の左側5分の1に、学び合うために意識させたい行動や言葉や価値語を書き、プラスの行為につなげていくもの）

右の写真は、授業者の河本勝一郎先生が1/5黒板に書いたものです。河本先生が目指している授業や学級が想像できますね。



# いの町 菊池学園だより (第34号)

公開授業は社会科の「縄文時代と弥生時代のどちらが幸せかを話し合う」授業でした。「縄文時代が幸せである」グループと「弥生時代が幸せである」グループに分かれ、それぞれの時代の良さを調べたり、相手側の時代の課題を探る作戦会議を行い、自分たちの主張（立論）を発表しました。



その後、互いに相手の主張の確認や矛盾点について質疑を行いました。質疑の後は、再び自分たちの主張の良いところや、質疑で答えられなかった内容を考えるための作戦会議を行い、発表しました。

河本先生はこのような授業を単元の最後に実施したことはあるそうだが、今回は単元の導入時（3/9時間目）に行いました。これにより今後の歴史学習への意欲につなげることも目指しています。そして、最後に再度同じテーマで話し合いをさせる単元構成をされています。



また、全員が1回は発表するために役割分担をさせ、子どもの成長につなげたいと願い授業をされました。終始「～してください」「お願いします」「ありがとうございます」と優しい口調で話され、温かく安心感があふれる雰囲気をつくり、子どもとの関係や、子ども同士の関係を築こうとされていました。

このような願いや手立てを持って授業をしていくことで、4月であっても考え続ける対話的な授業が行うことができ、子ども達も仲間と一緒に学び続けようと頑張る姿を見ることができたのではないかと、授業後に菊池先生は講評されました。まずは、子どもが安心して学べる学級づくりが大切です。



研究協議で、菊池先生は3点お話しされました。

- ①意欲に焦点を当てる
  - ②対話を生み出す授業を仕掛ける
  - ③ファシリテーターとしての教師のあり方
- ①は「授業の型」か「学習意欲」か、どちらを重視するのかということです。「（先生の）教えやすさ」より「（子どもの）学びやすさ」の授業を目指すことです。

②は「対話が生まれる良い問い」を用意することです。例えば、全員が答えることができる発問や対立を生む発問、抽象度の高い発問などにより自由に意見が言えるようになります。

③は指示の仕方を意識することです。「しなさい」ではなく、子どもから「引き出す」ことを大事にし、子ども達と共に学び、個と集団を教師がどうつないでいくのかを考えていきましょう。今日の河本先生の授業は、これらが意識された授業であったと話されました。

今年の公開授業は役場の管理職や町議会議員さん等にもご案内し、今回は水田副町長以下5名の役場管理職、議員さんが参観してください、「討論、大人も参考になりました。児童達、しっかりしていました。我が国（いの町）の未来は明るい。」との感想をいただきました。